

「公益財団法人日本相撲連盟中長期計画 2022～2026」

1 中期計画

(1) 競技力向上

<p>①組織として目指すところ</p> <p>国際大会での男女各階級での3位以内入賞者を多数輩出することを目指す。</p> <p>特に本計画期間内に行われる2022 ワールドゲームズ、2023 コンバットゲームズ、2023～2026 世界相撲選手権、世界女子相撲選手権、世界ジュニア相撲選手権、世界ジュニア女子相撲選手権では、出場する全階級での入賞を目標とする。</p>
<p>②現状分析</p> <p>外国選手のパワーと他格闘技の応用技により、しばしば意外な選手に苦杯を喫している。特に強化の目安となる世界選手権男子団体戦では、直近5大会でロシアが3回優勝、日本が2回優勝とロシアが優位である。</p>
<p>③達成目標</p> <ul style="list-style-type: none">・2022 ワールドゲームズ、2023 世界相撲選手権、2023 世界ジュニア相撲選手権、2023 コンバットゲームズでの個人3位以内入賞、団体優勝
<p>④戦略課題</p> <p><男子></p> <p>長い間、相撲は体重無制限で競技を行ってきた経緯があり、中・軽量級選手は、体の大きい選手をいかに倒すかを目標に稽古、指導が行われてきたため、体重別で行われる国際大会では苦戦を強いられている。</p> <p>本連盟では、国際競技力向上には体重別制の導入が戦略課題ととらえ、従来体重別を取り入れていた学生相撲連盟主催の一部の大会に加え、全国都道府県中学生相撲選手権、全国高校選抜相撲大会、全国高校相撲選手権大会等で体重別制を導入、全日本相撲個人体重別選手権大会を新設する等、体重別制を推進してきた。</p> <p>今後も体重別大会の充実、強化合宿での階級別の指導が課題である。</p> <p><女子></p> <p>女子相撲の普及は、国内外同時に行ってきたため日本選手の経験値による優位性は無い。また、外国選手は、国内の女性のように「相撲は男のスポーツ」といった先入観がないため、容易に相撲を体験することができ、選手集めにはかえって優位に働いていると思われる。</p> <p>女子に対し相撲の魅力を伝え、取り組みやすい環境を整備し、大会参加のすそ野を拡大することが課題である。</p>
<p>⑤課題解決のための戦略及び実行計画（アクションプラン）</p> <ul style="list-style-type: none">・外国選手に力負けしない基本体力の充実を図る。（選手強化本部）・基本である押しをベースとした戦略の策定（選手強化本部）

<ul style="list-style-type: none"> ・強豪選手の情報収集（選手強化本部） ・他格闘技の技の研究（選手強化本部） ・強化合宿での稽古で上記事項を実践する。（選手強化本部） ・体重別大会の充実を図る。（競技委員会） ・わんぱく相撲全国大会（男女）、全国小学生相撲優勝大会予選のすそ野を広げ、優秀選手の発掘活動を強化する。
<p>⑥計画・実施・検証・見直しのプロセス</p> <p>各大会の競技成績をもとに選手強化本部、競技委員会が計画・実施方法の検証を行い、修正案を理事会に提案し、理事会が決定する。</p>

（２）普及

<p>①組織として目指すところ</p> <p>相撲は、迫力とスピード感あふれる近代的スポーツであると同時に、長い歴史と伝統を持つ国民的文化である。本連盟は、相撲を鍛錬することによって、たくましい肉体とねばり強い精神をつくりあげ、心身ともに立派な人間として社会のために大いに貢献する人材育成に重きを置き、国内のみならず世界中の多くの人々に親しんでもらうよう普及に努めている。</p>
<p>②現状分析</p> <p>競技者に該当する年齢の人口減少に加え、コロナ渦の影響で、この２年間登録者数が減少している。</p>
<p>③達成目標</p> <p>令和３年度登録数を基に、毎年５％ずつ会員登録数を増加させる。</p>
<p>④戦略課題（現状と達成目標までのギャップを埋める上での課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者、施設の不足 ・コロナ感染者の増加に伴う諸大会中止による関係者のモチベーション低下 ・中学校相撲授業採用校が少ない。 ・武道等指導の充実及び支援体制の強化が必要。 ・登録事務が煩雑で、登録漏れが多数みられる。 ・段位取得・昇段者の停滞 ・JSPO 公認スポーツコーチの活用がされていない。
<p>⑤課題解決のための戦略及び実行計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止ガイドラインを状況に応じて見直し、大会実施及び安全・安心な稽古の実践を実現する。（医科学委員会） ・ホームページの充実、大会の動画配信等により、相撲の魅力を広く発信する。（総務委員会、広報委員会） ・競技経験がなくても指導が行えるよう指導者研修会を開催する。（普及指導委員会）

<ul style="list-style-type: none"> ・「する」だけでなく「みる」「ささえる」にあたる賛助会員の拡大を推進する。(総務委員会) ・競技経験がなくても審判として大会に参加できるよう、審判員講習会の充実を図る。(競技委員会) ・審判員講習会を行える講師の養成講座を開設し、「講師」資格を新設、各支部での細かな指導を推進し、審判員のスキルアップを図る。(コンプライアンス教育を含む。競技委員会、法令統治委員会) ・会員登録システムを更新し、事務の効率化を図る。(総務委員会) ・支部事務担当者研修会を開催し、事務の簡素化を図る。(コンプライアンス教育を含む。総務委員会、法令統治委員会) ・全国青年会議所との連携により、わんぱく相撲全国大会、わんぱく相撲女子全国大会(小学生)を開催し、若年競技者の拡大を図る。(普及指導委員会) ・「少年少女相撲指導書(DVD付)」の刊行(2023年度 医科学委員会) ・中学校相撲授業の授業協力者の育成と協力者活用システムの構築 ・「特別支援生徒の相撲指導」に関する小冊子、パンフレット等作成、HP掲載(2023年度 医科学委員会) ・選手、指導者、役員等の意欲向上、功績応報のため、表彰制度の効果的運用(倫理・資格・賞罰委員会) ・段位取得・昇段の推進を図る(段位審査委員会、普及指導委員会) ・JSPO公認スポーツコーチの活用
<p>⑥計画・実施・検証・見直しのプロセス(PDCAサイクル)</p> <p>指導普及委員会、競技委員会、総務委員会が当該年度の事業実施状況を検証し、修正案を理事会に提案し、理事会が決定する。</p>

(3) ガバナンス

<p>①組織として目指すところ</p> <p>適切な規程整備、法令順守を行う。</p>
<p>②現状分析</p> <p>法令統治委員会で、適切な規程整備を行っている。</p> <p>法令統治委員会、倫理・資格・賞罰委員会ともに、各委員の知識・経験は豊富であるが、必ずしもそれを十分に生かし切れていない。</p>
<p>③達成目標</p> <p>スポーツインテグリティ講習会開催等の啓発を行い、毎年、違反事例「ゼロ」の実現を図る。</p>
<p>④戦略課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理に関する理解が必ずしも十分ではない。

<ul style="list-style-type: none"> ・通報制度についての周知は、必ずしも十分とは言えない。 ・コロナ渦のため啓発活動が停滞してしまっている。 ・社会情勢の変化に対し、迅速に対応するために必要な情報収集を行う。
<p>⑤課題解決のための戦略及び実行計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会、講習会、諸会議の際に啓発活動の時間を設定する。(常務理事会) ・選手、指導者に対し、年3回以上インテグリティ講習会を行う(常務理事会、法令統治委員会) ・問題事例の通報制度について、加盟団体やその傘下団体の役員、指導者、選手等の関係者への周知を図る。(法令統治委員会、倫理・資格・賞罰委員会) ・各委員は、日頃から意識を高く持って、関係する法令、規程、制度等の理解をさらに深めるよう努める。(法令統治委員会) ・万一、違反事例が発生した場合は、倫理規程等に沿って迅速・適切に対応する。(倫理・資格・賞罰委員会)
<p>⑥計画・実施・検証・見直しのプロセス</p> <p>法令統治委員会、倫理・資格・賞罰委員会で毎年実施状況を検証し、修正案を理事会に提案し、理事会が決定する。</p>

(4) マーケティング

<p>①組織として目指すところ</p> <p>財務の健全性を確保するため、協賛企業の拡大を図る。</p>
<p>②現状分析</p> <p>主要大会でのプログラム、看板等で協賛広告を募集しているが、各企業で予算減額が実施され、本連盟の収入も減少している。</p>
<p>③達成目標</p> <p>大会運営、強化・普及活動に充当できる額を確保したい。</p>
<p>④戦略課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングへの研究・情報収集のための役員を配置する。 ・管理支出の緊縮
<p>⑤課題解決のための戦略及び実行計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング担当役員の配置(財務委員会) ・マーケティング関係セミナーへの役員派遣(財務委員会) ・相撲の魅力の外部発信(広報委員会) ・企業利益とマッチングするスポンサーの開拓(財務委員会、総務委員会) ・マスコミへの情報発信(広報委員会) ・組織を活かしたスポンサーの開拓(役員、全委員会)

⑥計画・実施・検証・見直しのプロセス

年度毎の収支をもとに財務委員会が検証を行い、修正案を理事会に提案し、理事会が決定する。

2 人材の採用及び育成に関する計画

①組織として目指すところ

ガバナンスコードに規定されている外部理事25%、女性理事40%、10年を超える理事の再任を避ける採用、育成計画を策定する。

②現状分析

令和3年6月に改選した役員・評議員の現状は、理事26名、評議員16名

外部理事4名（男3〈医科学専門家2、法律専門家1〉、女1〈実業家1〉）14%

女性理事4名 14%

外部評議員3名（男2〈弁護士1、公認会計士1〉、女1〈医科学専門家1〉）19%

女性評議員2名 12%

10年超の役員 7名（IF役員による特例措置）

③達成目標

2023年度改選で外部理事20%、女性理事20%

2025年度改選で外部理事25%、女性理事30% 外部評議員20% 女性評議員30%

10年超の役員については、IF役員の就任状況を見極めながら新陳代謝を推進する。

④戦略課題

- ・スポーツとしての女子相撲の歴史が浅く、女子が相撲に関わることへの抵抗感が払拭できていない。女子相撲の魅力を発信し、理解を得る。
- ・女性役員、外部役員採用を円滑に行うために「役員候補者の推薦等に関する規程」を見直す必要がある。
- ・国際相撲連盟は2018年IOCに正式承認されたが、オリンピック正式競技に採用されるまで本連盟が運営していくことが望ましく、現在のところ加盟国の多くが本連盟に依存している。
- ・役員に極端な年齢格差が生じている。

⑤課題解決のための戦略及び実行計画

- ・女子相撲の動画配信、マスコミへの情報提供等女子相撲の魅力を発信する。（女子相撲連盟、広報委員会）
- ・傘下の団体も女子役員の参画を推進する。（傘下団体、総務委員会）
- ・女子審判員の養成を行い、競技以外での関与を推進する。（競技委員会）
- ・有識者の相撲理解者を発掘する。（役員）
- ・「役員候補者の推薦等に関する規程」の見直し（法令統治委員会）

<ul style="list-style-type: none"> ・総務委員会内に将来構想検討部会を立ち上げ、研修会、検討会を開催し、次世代の役員育成に努める。(総務委員会、常務理事会) ・広い年齢層から役員を採用する。
<p>⑥計画・実施・検証・見直しのプロセス</p> <p>毎年の進捗状況を総務委員会が検証を行い、修正案を理事会に提案し、理事会が決定する。</p>

3 財務の健全性確保に関する計画

<p>①組織として目指すところ</p> <p>会員、段位取得・昇段、公認審判員などの登録料の増収を図り、あわせてマーケティング活動強化により財務の健全性を確保する。</p>
<p>②現状分析</p> <p>競技者該当人数の減少、コロナ渦の影響で会員登録数が減少、また協賛企業の広告予算緊縮傾向が続き、慢性的な資金不足が生じている</p>
<p>③達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受取登録料の毎年5%以上の増収を図る。 ・段位取得・昇段を推奨し、受取段位登録料を毎年5%以上の増収を図る。 ・大会広告料収入は令和3年度の収入額をうわまわることを目標にマーケティング力を高める。 ・支出金額を精査し、財務の緊縮を図る。
<p>④戦略課題</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大で、諸大会が中止になり、連盟運営のモチベーション低下が感じられる。アフターコロナを見据え、傘下団体との強固な連携を再構築し、連盟を挙げて財務の健全化に努めることが課題である。</p>
<p>⑤課題解決のための戦略及び実行計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員登録事務・公認審判員資格更新手続の簡素化を行う。(総務委員会、競技委員会) ・事務担当者研修会等で会員が支払った会費の使われ方を説明し、会員登録の必要性を周知する。(総務委員会、財務委員会) ・高段者に対する差別化を検討し、インセンティブを高めて昇段の奨励を図る。(段位審査委員会、普及指導委員会) ・見直しを励行し、支出金額の適正化に努める。(事務局) ・マーケティング担当者を育成し、戦略を策定する。
<p>⑥計画・実施・検証・見直しのプロセス</p> <p>年度毎の収支をもとに財務委員会が検証を行い、修正案を理事会に提案し、理事会が決定する。</p>